

防 除 情 報

長崎県病害虫防除所長

令和8年度病害虫発生予察 防除情報第7号

トマト・ミニトマト トマトキバガの防除対策について

令和8年5月～6月にかけてトマト、ミニトマトの複数の圃場においてトマトキバガの被害が確認されました。また、フェロモントラップによる成虫の誘殺数は年々増加しており、令和8年度は急激に増加し、トマト栽培終了後の8月においても発生が確認されています。本虫の対策はタバココナジラミと同様に『入れない、増やさない、出さない』ことが重要です。定植前にはハウス周辺の除草を徹底するとともに、ハウス開口部への防虫ネット（目合い1mm以下）の展張など、ハウス内に入れない対策を徹底してください。

記

1. 発生状況

(1) 促成トマト圃場付近設置のフェロモントラップの誘殺数は年々増加しており、令和8年度は急激に増加している。トマト栽培終了後の7月、8月においても誘殺数は減少しているものの、発生が確認されている。

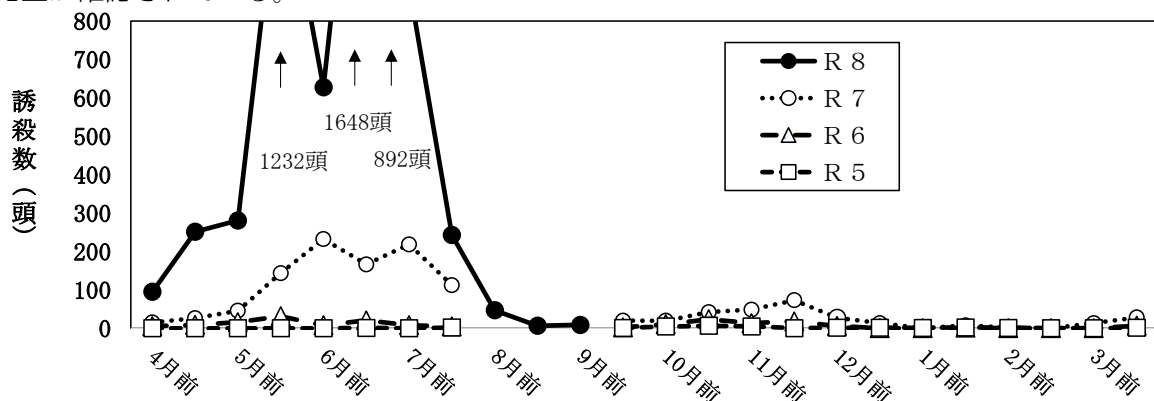


図1 フェロモントラップ誘殺数の推移（南島原市 促成トマト圃場付近設置）

(2) 令和8年5月～6月には県内数地域の一部ほ場で葉や果実への被害が発生している（図2、3）。ハモグリバエ類の食害痕は1本の線を描き、フンは食害痕に沿って筋上に見られる（図5）のに対し、トマトキバガの食害痕は面的に広がり、フンは食害痕の一角所にまとまっている（図4）。



図2 トマト被害果実



図3 トマト被害葉



図4 トマトキバガの食害痕（原図：農研機構）
食害痕は面的に広がる。
フンは一か所にまとまっている。



図5 ハモグリバエ類の食害痕（原図：農研機構）
食害痕は1本の線を描く。
フンは食害痕に沿って筋上に見られる。



図6 トマトキバガの幼虫（体長8mm程度）



図7 トマトキバガ成虫（原図：農研機構）

2. 防除対策

（1）入れない対策

- ア 施設栽培では開口部に目合い1mm以下の防虫ネット（タバココナジラミ対策：0.4mm）を張り本虫の侵入を防ぐ。
- イ ハウス内外の雑草等を除去する。

（2）増やさない対策

- ア ほ場を見回り、成虫および被害葉・被害果実の早期発見に努める。被害葉や被害果実は、発見次第、速やかに圃場内から除去する。
- イ 本虫の発生が認められた場合は、本虫に効果のある薬剤にて防除を行う（表）。薬剤防除にあたっては薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（表 トマトキバガに登録のある薬剤の「IRACコード」参照）の連用を避ける。

（3）出さない対策

- ア 除去した被害葉や被害果実は速やかに圃場外へ持ち出し土中に深く埋設するか、ビニール袋などにいれて一定期間密閉し寄生した成幼虫をすべて死滅させ、適切に処分する。
- イ 栽培終了後は、トマトを抜根または根元から切断して枯死させ、できるだけ隙間の無いよう、施設を密閉し、日中の室温50℃以上を1週間以上維持する。
- ウ 使用した資材は幼虫や蛹が付着している可能性があるため、密閉処理後に処分する。

表 トマトキバガに登録のある薬剤（トマト、ミニトマト：令和8年9月15日現在）

農薬の名称	登録の有無		IRAC コード	使用時期	希釈倍数/使用量	使用 方法	使用 回数
	トマト	ミニトマト					
スミチオン乳剤	○	×	1 B	収穫前日まで	2000倍	散布	2回 以内
ディアナSC	○	○	5	収穫前日まで	2500～5000倍	散布	2回 以内
ラディアントSC	○	○		収穫前日まで	2500～5000倍	散布	2回 以内
ダブルシューターSE	○	○		収穫前日まで	1000倍	散布	2回 以内
アフーム乳剤	○	○	6	収穫前日まで	2000倍	散布	5回 以内
アグリメック	○	×		収穫前日まで	500～1000倍	散布	3回 以内
アニキ乳剤	○	○		収穫前日まで	1000倍	散布	3回 以内
エスマルクDF	○	○	11 A	発生初期 但し、 収穫前日まで	1000倍	散布	－
ゼンターリ顆粒水和剤	○	○					
デルフィン顆粒水和剤	○	○					
チューレックス顆粒水和剤	○	○					
ジャックポット顆粒水和剤	○	○					
チューンアップ顆粒水和剤	○	○		発生初期 但し、 収穫前日まで	2000倍	散布	－
コテツフロアブル	○	○	13	収穫前日まで	2000倍	散布	3回 以内
トルネードエースDF	○	×	22 A	収穫前日まで	2000倍	散布	2回 以内
ファイントリムDF	○	×		収穫前日まで	2000倍	散布	2回 以内
アクセルフロアブル	○	○	22 B	収穫前日まで	1000倍	散布	3回 以内
プレバソンフロアブル5	○	○	28	収穫前日まで	2000倍	散布	3回 以内
				育苗期後半 ～定植当日	100倍	灌注	1回
ベネビアOD	○	○		収穫前日まで	2000倍	散布	3回 以内
ベリマークSC	○	○		育苗期後半 ～定植当日	400株当り25ml	灌注	1回
プリロッソ粒剤オメガ	○	○		育苗期後半 ～定植時	2g/株	株元 散布	1回
フェニックス顆粒水和剤	○	○		収穫前日まで	2000倍	散布	2回 以内
ヨーバルフロアブル	○	○		収穫前日まで	2500倍	散布	3回 以内
グレーシア乳剤	○	○	30	収穫前日まで	2000倍	散布	2回 以内
プレオフロアブル	○	○	UN	収穫前日まで	1000倍	散布	2回 以内

※農薬を使用する際は必ずラベルを確認しましょう。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

